

「しらさぎ舞」伝承活動の取組

1 学校名

南種子町立島間小学校

2 学年・人数

小学1年生～6年生（計41名）

3 日時・場所

(1) 練習

7月10日～9月27日・島間小学校体育館及び校庭

(2) 発表

9月29日（小学校合同秋季大運動会）・島間小学校校庭及び公民館

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称（ふりがな）

しらさぎ舞（しらさぎまい）

(2) 由来

「しらさぎ舞」は、島間小平山集落に伝わる伝統芸能で、十数年ぶりに復活した。しらさぎは縁起がよい鳥とされ、昔は島間浦の大漁祈念に踊られていた。現在、指導者は小平山集落在住の小山静夫氏である。いつどのように、伝来したのか詳細は不明であるが、相当古くから伝承されている踊りと伝えられている。

（下野敏見著 南日本の民族文化誌5 種子島民俗芸能集 南方新社より）

(3) 構成等

奏者：太鼓2名、入れ鼓2名、鉦（かね）2名 ※その他は踊り手となる。

服装：浴衣、赤袴、鉢巻き、足袋、藁草履

5 保存会や地域との連携の具体

島間小学校では、数年来、各集落の伝統芸能を運動会で発表している。平成25年度は、小平山集落の「しらさぎ舞」を発表した。小山氏の指導のもと7月から練習を開始した。

当初は、録音した小山氏の歌を流して踊りだけを練習していたが、小平山集落児童の高学年を中心に楽器の練習も追加した。（これは小平山集落のみ夜間に練習した。）

9月の運動会全体練習においても、小平山集落の方々に指導していただいた。運動会当日、踊り手は浴衣、赤袴、鉢巻き、藁草履を身に付け、奏者は専用の衣装を身に纏い、華やかに発表することができた。

島間小学校で児童が踊ったことがきっかけとなり、小平山集落の住民も「しらさぎ舞」を復活させ、島間岬神社大祭で奉納することができた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

地域の伝統芸能も年々担い手が減少しているのが現状である。「しらさぎ舞」について

も、「十数年ぶりに見た。」という地元の方々の声があった。子どもたちが運動会で踊ったことで、伝統芸能の良さを見直す機会となったのではないかと思う。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【7月 体育館での全体練習の様子】



【小山静夫氏による指導】



【運動会での発表の様子】

8 参加児童・教職員の感想・意見

(1) 児童

- ・ 「小平山の『しらさぎ舞』をおどってみて、とてもよかったと思います。最後の郷土芸能に『しらさぎ舞』を踊れて、いい経験になりました。」 <6年女子>
- ・ 「『しらさぎ舞』では、太鼓をやって最初は恥ずかしかったけど、慣れてきて本番でも普通に声が出せてよかった。太鼓もうまくたたけてうれしかったです。」 <6年男子>
- ・ 「みんながしっかり踊れてよかった。小学校最後の運動会で、心に残りました。小平山の人に一生懸命教えてもらいながらやりました。」 <6年女子>
- ・ 「僕は『しらさぎ舞』を歌いながら踊るということに、最初びっくりしました。運動会の時にしっかり歌えてよかったです。」 <6年男子：留学生>

- ・ 「僕は『しらさぎ舞』で歌い始めをしました。本番でちゃんと言えたのでよかったです。もう『しらさぎ舞』をする機会はないと思うけど、1回だけの本番は楽しかったです。」
＜6年男子：留学生＞
- ・ 「僕の一生のうちで一度のことができて、すごくよかったなと思います。」
＜6年男子：留学生＞

(2) 教職員

本校は、平成25年度は10名の宇宙留学生を受け入れた。留学生からは「ここでしかない体験ができた」、「いい思い出ができた」、「忘れない思い出になった」、という感想がほとんどであった。言葉も衣装も、島間の伝統を体験することが、留学生にとって新鮮で強烈な印象を与えたものと考えられる。

地元の児童も、『しらさぎ舞』を踊るのは初めてだったが、留学生と異なる点は、地元の先輩方に今後も継続して指導してもらえることである。将来、この経験を何らかの機会に再現し、伝統を引き継いでいって欲しい。